

一般質問 議:議員/理:理事者

- 人口減少、少子高齢化における「高齢者、障がい者にとって暮らしやすいまちづくり」について
 - モルックでつながる市民の輪と、健康長寿のまちづくりについて
- その他の質問
・中学校再編事業の透明性向上に向けた情報提供について



浦上雄次 議員



議 令和8年度当初予算において、高齢者、障がい者福祉をどのような位置づけで編成する考えか、特に「子育て支援とのバランス」をどう取るのか、市の見解を伺う。

理 市では、令和8年度の計画開始を目指し、第5次地域福祉計画の策定を進めている。計画案では、支援ニーズの多様化や相談内容の複雑化といった現状を整理し、分野ごとの個別支援から地域全体で支える体制へと移行していく方向性を示している。これを踏まえ、引き続き高齢者福祉・障がい者福祉の取り組みを重要な施策として位置付け、その充実に努める。予算編成は「子育て支援か高齢者福祉・障がい者福祉か」といった対立軸ではなく、社会動向や地域課題を踏まえ、勝山市全体の福祉向上に努めていく。

議 地域とのつながり、高齢者福祉、健康増進の観点から、モルックを市の施策に正式に位置づけ、まちづくり会館などと連携した展開は今後可能か。

理 モルックは勝山市社会福祉協議会が講習会や大会開催に取り組んでおり、地区社協を中心に地域に広がって、健康づくりや交流の機会として普及してきている。地域から練習場整備の要望や、公園を活用して自主的に大会が出来るようにしているとの話も伺っており、そういう意味ではフレイル予防としての取り組みは始まっている。引き続き関係機関と連携し、市民の健康づくりの面から普及をバックアップしていく。



モルック競技の様子

一般質問 議:議員/理:理事者

- 持続可能な社会の自然科学・文化教育資源活用による地域活性化について
- 外来種植物の駆除活動の再開について



富士根信子 議員



議 恐竜王国ふくいの拠点地域として、恐竜博物館の学芸員のお話を定期的または講座として市民全体・小中学校で聴く機会があれば、地域活性化の一助になると考える。

また、地域が未来に向けてより良い方向へ進むための文化教育資源として、勝山市史の最新版の発刊をお願いしたい。

理 複数の小学校で、県立恐竜博物館学芸員による学校教育支援として「恐竜授業」が実施されていたり、恐竜化石発掘地での地層観察が行われたりしている。さらに、かつやま恐竜スクールや新年度に計画している恐竜キャンプ（仮称）では、恐竜博物館や県立大学恐竜学部にご協力いただいている。学ぶ機会を充実させ、子どもから大人まで市民の方々が恐竜だけではなく勝山市の歴史や文化について知識と愛着を深められるよう取り組んでいく。

勝山市史の編さんは昭和38年に始まり、平成18年までに通史篇3冊、資料篇4冊、図説1冊を発刊して一応の完結を見ており、その後「ものがたりかつやまの歴史」も発行した。この成果を活用しつつ、新しい市史発刊は、資料整理の進捗や研究状況、社会情勢の変化を見定め、その方法や時期を検討していく。

議 10年ほど前に外来種の広がり食い止め日本の原風景が残る勝山の自然を守るために始めた、在来植物を駆逐してしまう恐れのあるセイタカアワダチソウを市内全域で一斉に刈り取る駆除活動を再開していただけないか。

理 これまで特定外来生物のオオキンケイギクとあわせ、セイタカアワダチソウの駆除を進めてきた。現在も学校や地域による環境美化活動として駆除が行われ、市は回収や処分を担っている。今後は外来植物の生態系に及ぼす影響等について周知を図り、毎年6月の市内一斉清掃日にあわせて駆除活動を広報するなど、引き続き学校や各区の駆除活動を支援していく。